実践編目次

研究ブロックの研究概要・架け橋期のカリキュラム

- 御所南小ブロック……32
- 下京雅小ブロック……40
- 竹田小ブロック……48

	事例名			ページ
幼児期の学びの芽生え	体を動かして遊ぶ楽しさを味わう姿を通して		幼保	56
	気の合う友達と一緒に身近な生き物との出会いを通して		幼保	57
	思いを込めてクジャクをえがく		幼保	58
	氷に興味や関心をもって関わり、考えたり試したりする姿		幼保	59
	多様性を受け入れ仲間とルールを考えて遊ぶ姿から		幼保	60
	生活発表会（劇遊び）の取組を通して		幼保	61
スタートカリキュラム	入学前に行う半日入学の工夫		小	62
	安心感をもち友達とふれあう入学式		小	63
	安心感と自己発揮のスタートカリキュラム		小	64
	幼保の保育者による読み聞かせ		幼保小	65
	生活科・国語科「めいしこうかんをしよう」		小	66
	算数科「わくわくがっこう」		小	67
	音楽科「うたっておどってなかよくなろう」「はくをかんじとろう」国語科「どうぞよろしく」		小	68
	生活科「いちねんせいがはじまるよ」道徳科「たのしいがっこう」		小	69
つながりのある保育・授業	算数科	数量や図形などへの関心・感覚	幼保	70
		ものとひとのかず	小	71
	体育科	帽子取り	幼保	72
		マットあそび	小	73
	生活科	ハーモニーピザパーティーをしよう	幼保	74
		なかよしいっぱいだいさくせん	小	75
	図画工作科	いろみずあそび	幼保	76
		カラフルいろみず（造形遊び）	小	77
	生活科	いきものとなかよし	幼保小	78
子ども同士の交流	図画工作科	すなやつちとなかよし	幼保小	80
	生活科	秋のお宝パーティー・あきといっしょに①	幼保小	82
	生活科	秋のお宝パーティー・あきといっしょに②	幼保小	83
	生活科	あきみつけ	幼保小	84
	生活科	京都御苑の交流からの授業・保育展開	幼保小	85
	生活科	もうすぐみんな2年生 Part1	幼保小	86
	生活科	もうすぐみんな2年生 Part2	幼保小	88
	体育科他	3歳児と育成学級との交流	幼保小	90
	総合学習	4年生保育交流	幼保小	91
大人同士の取組	公開保育と事後研修会		幼保小	92
	保育参観と合同研修会		幼保小	93
	公開保育と合同研修会		幼保小	94
	小学校教員の保育園懇談会への参加		幼保小	95
	新1年保護者・児童対象「○○○小オープンスクール」		小	96

御所南小ブロック　研究概要

（御所南小学校、おいけあした保育園、ひまわり幼稚園、中京もえぎ幼稚園）

研究主題

「ひと・もの・ことを大切にして未来に輝く子どもの育成」
～感じ　考え　思考する　そして論理的思考へ～

<テーマ設定の理由>

御所南小ブロックの各校園の教育目標や保育のねらいにおいては、ともに「思考力」の育成を目指していることが分かった。そこで、共通する目指す子どもの姿から、思考力に着目し、5歳児と小学校1年生の育ちの過程やつながりについて考えていくことにした。5歳児の遊びのおもしろさ、楽しさを感じながら考える姿を土台に、1年生では生活科を軸としながら感じ・考え、様々なひと・もの・ことにつながっていく子どもの育成を目指す。

「あきみつけ」でそれぞれが思考しながらつくった楽器をみんなに紹介している。

ビオトープの生き物をみんなで見て様子を想像し、様々に思考している。

電車ごっこの中で使う路線図をどうやってつくるか、友達と共に思考している。

友達の万華鏡を自分でもつくりたいと思い、試行錯誤しながら思考してつくっている。

<御所南小ブロックの研究内容>

子ども同士の交流 ⟷ **大人同士の交流・架け橋期のカリキュラムの作成・検討**

安心して小学校へ進学したり、自信をもって過ごしたりできるよう、子どもたち同士が一緒に遊んだり授業や行事に参加したりして交流を深める。

互いの保育や授業を見合ったり、事例検討会を実施して子どもの姿について話し合ったり、架け橋期のカリキュラムの作成と確認、検討を行ったりして、互いの保育・教育を知り、理解を深める。

1. 大人同士の交流

ねらい　子どもだけでなく、大人も関わりをもち、スムーズな子ども同士の交流や、互いの保育・教育の理解を進める。

幼保小顔合せ

幼稚園の環境設定に刺激を受けた小学校教員は、学校に戻ると早速、トイレの環境を工夫した。

かわいいイラストでトイレを明るく

スリッパを揃えやすくするためにイラストを活用

京都御苑での遊びに向けて打合せ

京都御苑で当日に向けての打合せ。子どもの人数、グループ分け、遊びの内容などを話すうちに、それぞれの「ねらい」が異なってくることにも気付けた。

夏の幼保小合同研修

幼保小の先生が共に協議することで、それぞれの関わり方や子どもたちへの願いなど、共通点を見つけたり、見通しをもったりできた。

「見ること」で、互いを「知る」
「知る」ことで、理解を「深める」

園内展や造形展見学

小学校では使わないような材料を幼稚園では使っていることや、年長の子どもたちが作品の見せ方を自分たちで考えていることなどを知り、小学校教員は驚きの連続だった。

保育や授業の参観

入学3日後に、机を向かい合わせにして幼稚園や保育園の時と同じような環境で好きなものの絵をかいている様子を参観し、自分の思いを安心して出そうとしている子どもたちの様子を見ることができた。スタートカリキュラムの具体的な様子を知り、子どもの安心とともに幼保の教職員の安心にもつながった。

幼稚園の帽子取りでは、子どもたちが自分たちでチーム分けをしたり、帽子の数を数えたりしていた。小学校の先生は幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）と照らし合わせながら参観した。幼保と小学校の先生が10の姿を通して共に考えることができた。

大人同士の交流の成果と課題

大人同士が顔見知りになり、親しくなると「あの子は元気に頑張っていますか」と子どもたちを真ん中においた会話が自然と生まれ、忌憚なく意見を伝え合い、子どもたち同士の交流もしやすくなった。また、保育・授業参観だけでなく、行事参観や合同研修等、何度も足を運ぶことで、子どもたちも大人の顔や名前を覚えていき、「知っている先生がいる」という安心感が生まれた。「見る」「話す」ことが互いを「知る」ことへの大きな一歩になるとともに、よりよい交流へとつながっていった。

2. 5歳児と1年生との交流

ねらい

1年間で複数回、交流をすることで、5歳児は「小学校って楽しそう」と感じて安心し、見通しをもって進学できるようにする。1年生は年下と関わって自分自身の成長を感じたり、相手を思いやる気持ちをもったりする。

4月	5月	6月	7月	8月	9月

ごしょであおう!(6月)〈生活科〉

5歳児と1年生とが京都御苑で初めての交流。みんなで元気に挨拶をしたり、返事をする子どもたち。またそれぞれの先生たちの紹介も。子どもたちはまだ少し緊張している様子。

まずはみんなの緊張をほぐすため、大勢で一緒に遊ぶ時間をとった。「1年生の人は出ておいで」という言葉で真ん中に集まった。子どもたちの緊張も少しずつほぐれ、笑顔が見られるようになった。

その後は5歳児と1年生とのグループに分かれて、それぞれ遊びを楽しんだ。
1年生は、「仲良くなれたよ」「また遊びたいな」と振り返りカードに書いていた。

シロツメクサで指輪を作ろう。こうするとできるよ。ほら、かわいい指輪ができた。

スポーツフェスティバルで交流(10月)

スポーツフェスティバル1年生の部に、5歳児も参加。事前に各園で1年生が踊る「ジャンボリミッキー」の動画を見ながら練習し、当日はそこに6年生も加わってみんなで楽しく踊ることができた。
初めての小学校に少々不安げな5歳児もいたが、向かいにいる1年生を見たり近くの6年生を頼ったりしながら踊っていた。

*1年生と6年生は兄弟学年である。京都御池中学校舎で過ごす6年生は1年生との交流が少ないが、スポーツフェスティバルの準備や1年生の部の開閉会式を担当した。1年生が手に付けているポンポンは6年生が作ってくれたものである。6年生、全員が積極的に踊りに参加していた。

10月　11月　12月　1月　2月　3月

もうすぐ みんな 2年生(2月)〈生活科〉

私も同じ気持ちだったな。何かできることはないかな。

5歳児からビデオレターが届いた。入学前の不安な気持ちを知った1年生は、「私たちが何とかしてあげよう」という気持ちになった。「小学校って楽しいよと伝えたい」というおもいをもとに様々なグループに分かれ、「どうすれば不安や心配がなくなるかな」と考えながら準備を進めていった。

「1年生はたのしいよ」の会に招待(3月)〈生活科〉

小学校に向けて心配していたけれど、楽しんでいたのでぼくたちも安心したよ。

緊張したよ。でも年長さんが笑顔になってよかった。

わたしたちにまかせて!

様々なグループに分かれ、5歳児に色々なことを教えたり、体験してもらったりした。5歳児から「もうちょっとやりたかった」「楽しかったよ。ありがとう」と感想をもらい、1年生は5歳児が笑顔になる様子を見て、自分たちのおもいが伝わったことに安心していた。最後は、「4月に入学してくるのを楽しみにしているよ」「また仲良くしようね」と言って終わった。

5歳児と1年生との交流の成果と課題

1年間で何度か交流を重ねる中で、子ども同士が顔見知りになり、近所の公園で出会ったことなどを報告してくれた。交流をきっかけに親しい関係が築かれていくことが確認できた。

1年生は、「どうすれば年長さんが楽しめるかな」と回を重ねるごとに相手意識をもって思考する様子が見られるようになった。5歳児にとっても、「小学校でも折り紙できるんだ」と幼稚園や保育園と同じ遊びができることに安心する様子も見られた。繰り返し交流することで、5歳児も1年生も「安心」から「成長」、そして「自立」へと変容していく姿が見られた。

3. 幼保の会「にじいろのねっこ」(にじっこ)

ねらい おいけあした保育園、ひまわり幼稚園、中京もえぎ幼稚園の横のつながりをもち、幼保のカリキュラムを作成し、一緒にカリキュラムマネジメントをする。

<幼保の会の名称を決めよう!>

「にじ」って架け橋のイメージだよね

「ねっこ」って幼児期のイメージだよね

略して「にじっこ」なんていいんじゃない?

じゃあ、「にじいろのねっこ」はどう?

「にじいろのねっこ」「にじっこ」いいね!!

様々な名前の案を出し合いました。

「にじいろのねっこ」(略して「にじっこ」)**に決定!**

<エピソードを話し合おう!>

- 互いの園文化を尊重
- ざっくばらんに話す雰囲気
- 無理なくエピソードを出し合う

各園でエピソードを出し合い、話し合った。すると、各園の保育には、違いもあるが、共通する点も見えてきた。「こういうときってどうしたらいいんでしょう」と、お悩み相談が始まったり、「おもしろそう」と共感したりした。文章ではなく写真などで具体的に子どもの話をしたこともあった。

<カリキュラムを作成しよう!>

- 研究主題から項目を決定
- 具体的すぎない
- 抽象的すぎない
- ニュアンスが異なる言葉
- 期間の区切りも相談
- 全園が納得できるものを

具体的すぎると「この活動をせねばならない」となるので、抽象的な表現にした。しかし、抽象的すぎると方向性がなくなるため、研究テーマの「思考力」を軸に作成した。園の文化により学期や季節で期間を区切っているなどの違いを認め合いながら、全園が納得できるように作成していった。そして、人間関係の育ちと思考力の育ちが関連しているのではないか、という案が出た。

人間関係の広がりや深まりと思考力を関連付けたカリキュラムに

<カリキュラムマネジメントしよう!>

2、3年目には、「思考力」に着目したエピソードをもとにカリキュラムを見直していった。見直した箇所は点線を引き、○番号でエピソード番号を入れた。さらに、重要なキーワードは□で囲った。エピソードの検討をもとにしたカリキュラムマネジメントにより、さらに子どもの実態に即したカリキュラムになっていった(カリキュラムはP.38、39に掲載)。また、小学校のカリキュラムも、同様にカリキュラムマネジメントをして見直していった。

カリキュラムマネジメントの実践例

1年目 ◎アイデアを実現していけるような方法を先生も共に考える。

エピソード⑨ 10月初旬 タカシ型

紙飛行機が大好きになり、友達と一緒に毎日のように飛ばして遊んでいるタカシ。タカシが家で自分でつくってきた紙飛行機は、折り紙を2枚使っていて、1枚がおもりのようになっているため、とてもよく飛んだ。タカシが考えたつくり方なので、「この紙飛行機はタカシ型やな!」と保育者が発言したことから、**「タカシ型」という名前と形は子どもたちの間で広がっていった。**

タカシ型の紙飛行機

子どものアイデアを広げたり
友達につなげたりする
ことって大事だよね。

**エピソードをもとに
カリキュラムマネジメント**

2年目 ◎アイデアを実現していけるような方法を先生も共に考えたり、これまでの経験を生かしたり、子どもたちのアイデアを広げたり、つなげたりしてイメージを共有する。

2年目以降は、具体的なエピソードをもとに幼保の先生で一緒に話し合ったことで、他のエピソードとの共通点を見つけたり、大切なことに気付いたりして、さらに子どもの実態に即したカリキュラムになった。

幼保の会「にじいろのねっこ」の成果と課題

にじっこができたことで、3園がお互いをより身近に感じるようになった。にじっこという組織があれば、異動や担当者の変更があっても、連携を継続できる。ただ、会議を実施するには日程調整が難しいので、先を見通して年間予定を立てて進めることが必要であった。今後、さらに近隣の園にも呼び掛け、地域の幼保のつながりを広げていきたい。

3年間の研究の成果と課題

一緒に遊んだり、授業に参加したりして交流をしたことで、子ども同士は互いの校園を身近に感じることができた。また、交流の打ち合わせや事例検討会、研究授業・保育で担任同士が話し合うことで、大人同士の交流も進み、関係性を深めた。さらに、「思考力」について様々な場面で話し合ったことで、互いの保育・教育への理解を深めることができた。

「ひと・もの・ことを大切にして未来に輝く子どもの育成」～ 感じ 考え 思考する そして論理的思考へ～ 御所南小ブロック

共通の視点	5歳児				
月	4 5 6 7 8	9 10	11 12	1	2 3
目指す子どもの姿	遊びのおもしろさ、楽しさを感じながら好きなことを満足するまで楽しむ 自分と向き合って考える 友達と協力して考える 互いの考えを尊重し、共に考える 友達と協同して考えを広げ、深める 小学校に期待をもつ				
子どもたちの経験・遊び	◎園生活の中で自分の好きな遊びをみつけて、満足いくまで十分に取り組む	◎自分の思いに向き合い、試したり工夫したりする ◎友達の様々な思いに気付き、互いに思いを出し合って葛藤する	◎興味のあることをもとに(⑧)、好きな遊びを友達と一緒に楽しみ、アイデアを出し合って遊びを発展させたり、広げていったりして、実現(⑧)する	◎友達と互いの考えを認め合い、折り合い、協力しあって刺激を受け合いながら(⑯)共に遊びをすすめ、満足感や達成感を感じ(⑭)る	◎自分の意見も出しながら友達の意見を聞き、協同して遊びを進める ◎小学校との共通点を感じたり、見つけたりして(⑰⑳)小学校に期待をもつ
思考力を育む 保育者の関わり	◎子どもの思いを感じ取って共感し(①)、引き出したり、共に探ったりして興味のあることを見つけ、期待をもって生活できるようにする(全) ◎先生も一緒に遊びを楽しみ、子どもが安心したり、信頼関係を築いたりする(全) ◎子どもの興味のあることや好きなことを取り入れ、(全)好きな遊びを十分に楽しめるようにする	◎相手の思いを代弁し、様々な思いを感じ取る ◎子どもの多様な考えを受け止める ◎子どもの思いに共感し(②)、自分で気付いたり(③)、考えたり、友達との関わりをもって共に進めることができ(⑤⑦)るように見守り、肯定的に受け止める	◎子どもが困ったり、思いが通らなかったりした際は、互いに(⑪)意見を言い合える機会をもち、自分の思いを言葉にして伝えられるようにする ◎アイデアが実現していけるような方法を先生も共に考えたり、これまでの経験を生かしたり(⑧⑭⑮⑯)、子ども達のアイデアを広げたり、つなげたり(⑨)してイメージを共有(⑫)する	◎意見を聞き合える機会をもち、一人一人のアイデアを生かして遊びが展開していくようにしたり(㉗)、自分の思いと共に友達の意見に納得して折り合えるようにしたりする	◎楽しいことも悲しいことも様々な感情を共有することで深めていけるようにする ◎小学校に安心し、期待をもてるように、小学校で知っている物や人を見つけたり、つながったり(⑰⑳検診・半日入学・交流)する
思考力を育む 環境構成	◎多様な遊びが実現できるようにこれまでも使用してきた物や遊びに必要な物(①)を準備する ◎遊びをじっくりと楽しめる時間と空間を用意する	◎自分なりにじっくりと試行錯誤し(⑤)たり、工夫したりできるようにする空間や時間を用意する ◎遊びから出た必要な物、本などを準備する(②③))	◎子どもたち自身が環境構成に参画できるような時間と空間を確保する ◎アイデアを共有できるように遊びの場や機会、道具などを準備する(⑦⑧⑨⑪)	◎友達同士で(⑲)様々なアイデアが長期的な視点で実現でき遊び仲間の拠点となる場(⑲)や、子どもの時間と空間を確保する	◎クラスなど集団で取り組み、自分と友達の成長を感じ、みんなで相談しながら進められる場を用意する。 ◎小学校への期待をもてるような交流の機会をつくる
子どもの交流	ごしょであおう!	スポーツフェスティバル	秋の御所	あきのあそび	学校は楽しいよの会

※数字はカリキュラムマネジメントの元となるエピソード番号　点線部分は見直した箇所　□は重要なキーワード

「ひと・もの・ことを大切にして未来に輝く子どもの育成」～ 感じ 考え 思考する そして 論理的思考へ～　御所南小ブロック

共通の視点	小学校1年生			
月	4　5（合科的）	6　7（合科的・関連的）	8　9　10　11　12	1　2　3
目指す子どもの姿 遊びや学びのプロセス	感じる　つながる　自分から　未来を切りひらく子ども 先生や友達との関係を築く 知っている友達から輪を広げる 小集団の中で安心して自己を発揮する 成長・自立 グループ活動を取り入れ、クラスメイトとして新たな友達関係を築く 行事を通して、学級の一員としての意識を高めていく 安心 1年間の自分の成長を振り返り、2年生になるという自覚をもつ			
小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等	・知っていること や 好きな遊び から始める（①） ・知りたい、見たい、調べたい、確かめたい ・実感の伴った言葉で表す	・分析的に考える（見つける、比べる、例える）（③） ・相手や目的に合わせて表現内容や表現様式を考える →	・創造的に考える（試す、見通す、工夫する） ・様々な事象と関連付ける ・無自覚なものを自覚化 する（③）	・相手意識 をもって活動する
	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身につけるようにする。 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。			
思考力を育む指導者の関わり	・保育者の関わり方を知り、子どもと一緒に遊び、信頼関係 を築く（①） ・やってみたい、できるようになりたいと思えるようにする	・これまでの経験 から 解決策を考え たり、友だちと 一緒に考え たり、本で調べたりすることができるようにする（②）	・子どもの意見や考えをつなぎ、子どもとともに創造するようにする（②③）	・成長した自分に気付き、今後の自分の成長におもいや願いがもてるようにする
	うなずく・共感する・納得する・驚く・広げる・ほめる・伝える（子どもと共に）			
思考力を育む環境構成	・ブロック や 折り紙、向かい合わせの机、机の無い広い場所での活動（就学前施設に近い環境 作りで 安心感 をもち 自己発揮 できる） ・学習のきっかけ作りとなる掲示 ・?!☆などを使用した板書 ・おもいや願いがふくらむ学習活動	・二人組、グループ活動 ・子どもたちの気付きを 視覚的にわかりやすく まとめた板書 ・一つ一つに じっくり と関わったり、繰り返し 関わったりできるような時間 ・困りを共有 し 解決策をみんなで考える 経験（②）	・自分や友達、教師、ものとの関わりの中で、「気付き→考え→行動する」ができるような場と時間 ・試行錯誤 したり、友達と考えを深めたりできるような場（③）	・一人一人が以前の自分より向上し、成長したことに気付けるような環境
	人・もの・こととの出会わせ方を工夫する　具体的な体験や活動を行う　子どもの姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげる			
子どもの交流		御苑で一緒に遊ぶ（ごしょであおう!）	スポーツフェスティバル一緒にダンス（招待） 秋の御苑で一緒に遊ぶ あきのあそびを一緒に楽しむ（オンライン・招待）	学校は楽しいよの会（招待）

※数字はカリキュラムマネジメントの元となるエピソード番号　点線部分は見直した箇所　□は重要なキーワード

下京雅小ブロック　研究概要

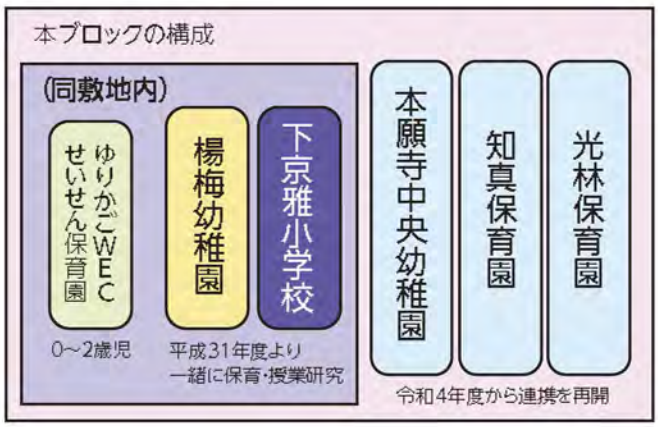
（下京雅小学校、光林保育園、知真保育園、本願寺中央幼稚園、ゆりかごWECせいせん保育園、楊梅幼稚園）

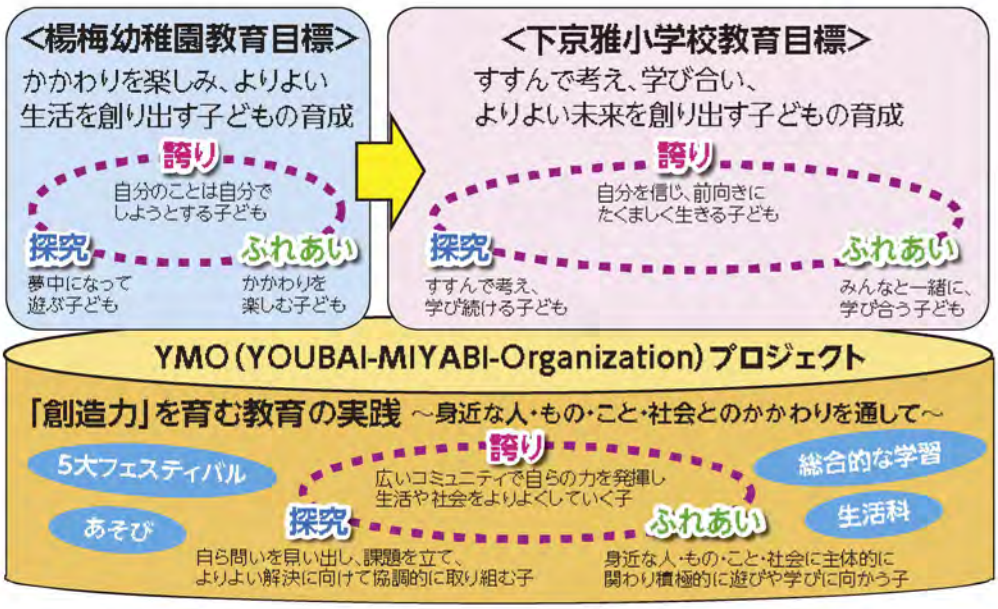
研究主題

『自ら学ぶ力』を高めることを目指した、『心が動く』教育の創造
～幼保小が一体となり、架け橋期にふさわしい保育・学習の在り方を探る～

1.ブロックの概要

本ブロックは、下京雅小学校と5つの就学前施設から構成されている。楊梅幼稚園とゆりかごWECせいせん保育園は、下京雅小学校と同敷地内にあり、ゆりかごWECせいせん保育園については0～2歳児対象の小規模保育園である。また、光林保育園・知真保育園は、校区内にある施設であり、本願寺中央幼稚園は、入学児童が複数いる近隣の幼稚園である。





下京雅小学校と楊梅幼稚園とは平成31（2019）年から一緒に保育・授業の研究をしてきている。つけたい資質・能力を共有し「遊び」と「学び」のつながりを意識した取組を、保育や授業、日常生活や行事の中で進めている。

フェスティバルで

一緒に遊んで

保育・授業で

2. 活動内容

(1) 5歳児を小学校へつなぐ

入学式

児童机やいすは置かず、カーペットを敷いて遊べるように。

安心

半日入学でも

就学前施設の教員と協力し、教室を就学前施設に近い環境に

スタートカリキュラム

入学後数週間は、歌や絵本の読み聞かせ等、就学前施設での活動を参考にしたり、授業時間や教科にとらわれることのない合科的・関連的な指導をしたりしている。また、入学後早い時期（4月中旬）に、子どもの発達や学びの様子、指導の在り方などを全教職員と幼保の教員で共有する機会（スタートカリキュラム研修会）を設定し、1年生の児童が学校生活のスタートを安心して過ごせるようにしている。

(2) 遊び（保育）と学び（授業）をつなぐ

公開保育・公開授業

授業を知る

令和5年度の例

<公開保育>
6月9日（金）
〈3歳・4歳・5歳〉
<公開授業>
6月23日（金）〈1年〉
9月15日（金）〈6年〉
10月13日（金）〈3年〉
<YMO 研究発表会>
11月24日（金）
保育〈3歳・4歳・5歳〉
授業〈2年・4年・5年〉

保育を知る

主体的・対話的で深い
学び

自ら学ぶ力

子どもの「心が動く」環境・活動・働きかけ
遊び

保育や授業を参観し合うことで、小学校の学びの現状や園での保育の様子を互いに知る良い機会となっている。参観後、子どもたちの様子や指導の在り方について一緒に協議することで、相互理解が深まっている。

(3) 子ども(園児)と子ども(小学生)をつなぐ

①「あきといっしょに」梅小路公園(下京雅小学校・楊梅幼稚園・本願寺中央幼稚園)

・単元のねらい (小学校)

秋の身近な自然を観察したり利用したりするなどの遊ぶ活動を通して、季節の違いや秋の特徴を見つけたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、秋の様子や四季の変化、自然を利用した遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、身近にある自然を取り入れて生活を楽しくしようとしたり、遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。

本時のねらい

(小学校)
園児との秋見つけを通して、園児と関わることや秋を見つけることを楽しむことができるようにする。

(幼稚園)
1年生に安心感や親しみ、憧れの思いをもって関わろうとする。地域の幼稚園や保育園の同年齢の友達と一緒に過ごす雰囲気を感じ、安心感や居心地のよさを感じる。

事前打ち合わせ

梅小路公園で

グループ編成

互恵関係

活動内容

日時・スケジュール

交流の様子

当日までに動画や手紙で園児を誘ったり、グループ写真を交換したりして、会える喜びを高めた。

出会い

待ち合わせの場所で園児を見つけて大喜びでバンザイ。あまりの嬉しさに園児たちのところへ駆け寄る姿も。みんなでエビカニクスを踊ったときは小学校の先生だけでなく、幼稚園の先生も前に立って活躍するように役割分担をした。

初めて会った違う園の子どもたち。すぐに仲良くなる姿。子どもは仲良くなる天才だと感じた。

秋見つけ

お弁当

いつもよりも少しお兄さん、お姉さんになった1年生。園児に優しく接する姿がとても頼もしかった。

遊び

打ち合わせの時は、小学校は帰って給食を食べると言っていたが、2園が「一緒に食べましょう」と盛り上がり、小学校もお弁当を食べることに。食事を共にして、元気いっぱい一緒に遊んで、もっと仲良くなれた。

またね

「また必ず会おうね」と、約束。1年生は、幼稚園の先生とも会う約束をしていた。

1年生の存在があって安心できた園児たち。園児と関わることで成長できた1年生の姿が見られた。

梅小路公園で交流活動を行った。1年生と2園の5歳児で1グループ8人程度のグループを作り、ドングリやきれいに色づいた葉っぱを探し回ったり、鬼ごっこやバルーン遊びなどを楽しんだ。
園児も小学生も、とても楽しく活動ができ、楽しかったことやお互いの存在が心に残る交流になった。園児は小学生や他園の子どもの刺激をもらい、小学生はお兄さんお姉さんとして行動できて、互恵性のある交流になった。「また、交流をしましょう」と幼稚園の先生からの提案があり、新たな交流のスタートにもなった。
今回はできなかったが、秋見つけのあと、秋のおもちゃをつくって、一緒に遊ぶという交流も可能である。単元を通して、園児と小学生が継続して関わることも、教育的意義が大いにあると思われる。次年度につなげたいと思う。

②「もうすぐ2年生・学校探検」（下京雅小学校・知真保育園・本願寺中央幼稚園・楊梅幼稚園）

3月には、ブロック内の施設の5歳児が本校に集まって、1年生が学校紹介をする活動を行っている。小学校の子どもたちからのインタビューをきっかけに、各園で「学校について知りたいこと」を子どもから聞いて、手紙やポスターをつくり、1年生の教室前に掲示した。そのことで、活動への意欲がわき、「幼稚園や保育園の人のために考え、準備をする」「当日を楽しみに待つ」等、主体的に活動することにつながった。
当日、1年生はグループに分かれて、学習や給食など学校生活の様子を5歳児に説明したり、校内を案内したりした。1年生は、自分たちより小さい子に伝えたい、案内したいという思いをもって活動することで、主体的な学びにつながっている。
5歳児にとっては入学前に小学校のことを知ることができ、1年生とともに活動することで、人や場所に、より安心感をもち入学を迎える良い機会となっている。（詳細はP.86を参照）

③日常的な交流が生まれる

ゆりかごWECせいせん保育園とは、アートフェスティバル（作品展）で作品交流を続けてきている。意図的に設定した子ども同士の交流活動はないが、校内を散歩に来ていた2歳児に対して、絵本コーナーで2年生の児童が自発的に読み聞かせをしている姿が見られた。架け橋プログラムの取組の中で育まれた力が発揮された場面であった。

(4) 保育者と授業者をつなぐ

公開保育・授業の事後研修会

直接、思いを伝え合う

相互理解を深める

子どものために
「つながり」を意識した
よりよい「遊び」「学び」の実現

『違う』が当たり前!
『違う』を受け入れる!

合同研修会

交流の打ち合わせ

つながりを意識したよりよい「遊び」・よりよい「学び」の実現のため、教員同士がつながりをもつことは大切である。直接、思いを伝え合うことのできる場面を設定し、『違う』ことは当たり前であることを受け入れ、互いの子どもたちのために何ができるかを考えるようにしている。

3. 成果と課題（小学校教員及び就学前施設の保育者のアンケートより）

◇「子どもたちにとって良い取組」と感じているかを、「とてもそう思う」「そう思う」「あまり思わない」「思わない」の中から選ぶようにした。その結果、7割以上の教員が「とてもそう思う」と答え、残りの全てが、「そう思う」と答えた。否定的な回答をした教員はいなかった。

幼稚園児と交流する小学生の姿を見ていると、より相手意識をもって活動をすることができたと感じている。

小学生への憧れ、期待が高まった。また、このような活動があることで、家庭でも小学校について話題になり保護者の方の安心感にもつながったように感じる。

小学生にとって年下の子たちを大事にする機会や自分の成長を知る機会になると思うから。

安心したり憧れたり、いたわる気持ちが出てきたりと、幼保小の子どもたちがそれぞれに感じたり学んだりしていると考えるため。

子どもたちにとって良い取組だと思いますか

小学校への入学に対し、前向きに捉えられる子が多かったように感じたため。

子どもの成長をロングスパンで見ることや幼稚園と小学校それぞれ専門性が異なる視点で子どもたちを見ることが大切だと感じるから。

自分たちが小学生にしてもらっているように、園児同士でも、年下の子どもたちに優しく接している。

小学生は幼稚園児にやさしさや思いやりをもって取り組むことができ、自己肯定感の高まりにつながっていると思う。

<1年生にとって>
やさしさや思いやり
相手意識をもって活動
主体的な活動
自己肯定感の高まり
自信と自覚
成長を実感

<5歳児にとって>
やさしさや思いやり
年長児として年下をいたわる気持ち
安心感
1年生への憧れ
期待の高まり
入学に前向き

小学校教員の意見

就学前施設保育者の意見

子どもの変容

◇「自分（教員）にとって良い取組」と感じているかを、「とてもそう思う」「そう思う」「あまり思わない」「思わない」の中から選ぶようにした。その結果、6割以上の教員が「とてもそう思う」と答え、残りの全てが、「そう思う」と答えた。否定的な回答をした教員はいなかった。

就学前施設教員の子どもに対する接し方を知ることで、自分自身の教育に活かすことができたから。幼児教育を見て知ることで、自分の教育観が変わったから。

互いに子どもたちのことを知るとともに教師同士の関わりも深まるから。

就学前の子どもたちがどのように活動に熱中していくのかということは、思っていた以上にそのまま小学生にも使えるということが分かったから。

教員にとって良い取組だと思いますか

自分の視野の広がりや深まりにつながり、よりよい保育の創造につながるから。

小学生の姿から授業への取組の様子がうかがえ、送り出す側として大きな安心を感じたから。

就学前の取組を知ることで、子どもが主体的に授業に取り組むための手立てなどを考えることができるから。

今まで知り得なかったことを学ぶ機会となっている。小学校の先生と話をする機会が増え、何でもない子どもの姿や小学校の取組について話し合えるから。

日々の授業改善につながっていると思うから。

教員の変容

<小学校教員にとって>

日々の授業改善

「遊び」と「学び」のつながりを実感し、子どもの主体性を大切にする授業展開に役立っている。

<就学前施設教員にとって>

送り出す安心感

送り出した子ども達がどのような小学校生活を送っているか知ることで、安心感や保育改善に役立っている。

まとめ

本ブロック内でも、これまでの関係性や地理的な条件で、園によって教員の関わり方や子どもの交流活動の内容や回数が違っている。しかし、様々な条件の中でできることを工夫しながら、子どもたちにとっても指導者にとっても、互恵的で持続可能な取組を今後も積み重ねて、子どもたちの『自ら学ぶ力』を高めることにつなげていきたいと考えている。

架け橋期のカリキュラム（5歳児）

[　　]は各視点における年度当初の子どもの姿　[　　]は各視点における年度末の子どもの姿

下京雅小ブロック

共通の視点		5歳児 4月 5月　6月 7月 8月	9月 10月 11月 12月	1月 2月 3月
ねらい		【新しい環境に安心、年長になった喜びと目覚 】 友達と関わって遊ぶ中で、思いを出し合いながら遊ぶことを楽しむ。 年長児になった喜びを感じ、自覚をもち、生活を進めようとする。	【 遊び、友達の広がり、目的の共有 】 自分のめあてや友達と共通のめあてをもったり 、遊びを進めたりすることを楽しむ。 小学生との交流を通して、小学校への憧れや進学への期待を感じる。	【 皆で楽しむ満足感、小学校への期待 】 共通の目的をもって協同して遊びを進め、満足感を味わう。 自分や友達の成長を感じ、1年生になる期待をもつ。
内　容		【生活】新しい環境での生活の仕方がわかり、安心して園生活を楽しむ。 【友達】年長児になった自覚をもち、異年齢児とのふれあいや関わりを楽しむ。気の合う友達と思いや考えを伝え合い、共通の目的をもって遊ぶ楽しさを味わう。 友達とルールを考えたり、守ったりしてルールのある遊びを楽しむ。	【生活】自分の思いや考えを言葉で伝え、クラスで話し合い、遊びを進める楽しさを味わう 。 【友達】友達と共通のめあてをもち、力を合わせたり、役割を分担したりして遊ぶことを楽しむ 。	【生活】これまでの生活を振り返ったり、年中児に生活を引き継いだりして成長を自覚し、自信と期待をもって修了する。 【友達】友達と共通の目的に向かって力を合わせて遊びに取り組み、達成感や充実感を味わう。
連携	園	小学校と就学前施設の担任同士で、小学生との交流について、具体的な計画をする	小学校のフェスティバルや交流活動などに参加し小学生との関わりを楽しむことができるように事前、事後に担任同士で打ち合わせをする。	安心して進学することができるように一人一人の育ちを共有するとともに小学校に伝える。次年度の交流の計画を立てる。
連携	家庭	家庭訪問や懇談会で保護者の思いや子どもの家庭での過ごし方などを把握し、遊びや関わりに生かす 。	子ども同士のかかわりの深まりとともに思いのぶつかり合いなどもみられるが、学びや成長につながることを伝え、理解につなげる。	一人一人の子どもの成長を共に喜び、保護者も小学校への安心感と期待を持つことができるようにする。
すすんで学ぶ	幼児	[身近な環境に興味をもって関わり、繰り返しやってみようとする] 色水などの素材での遊びなどで友達に思いを伝え、繰り返し様々な方法を試しながら遊ぶ。様々な環境に自分からかかわって遊ぶ。思考力の芽生え	どうすればみんなで思いを合わせて遊びを進めていくことができるのか、自分の思いを伝える。道徳性・規範意識の芽生え やりたいことに強い思いをもち、より本物らしくなど、自分のイメージに近づくことができるよう友達と思いや考えを伝え合いながら工夫しようとする。協同性	経験を活かして、より自分の思いを実現できるものを工夫してつくったり、友達からの刺激を取り入れながら、試行錯誤したりする。豊かな感性と表現 [身近な環境に興味をもって関わり、試したり考えたりしようとする 。]
すすんで学ぶ	教師	子どもが進める遊びを受け止めながらイメージや思いを実現できるように方向付けや提案をしていく。	自分のめあてをもって遊ぶことができるように思いを確かめたり、励ましたり、認めたりして関わる。	自分なりに感じたことや考えたことが集団の中で生かされるよう助言する。
すすんで学ぶ	環境	今まで経験したことがある材料用具に加え、遊びの様子を見ながら新たなものを考えて出したり、場をつくったりする。	目的をもって製作したり協力して遊んだりできる場や要求に応じられる材料や用具、器具などを用意する。	イメージを膨らませて表現したくなるように絵本や図鑑など子どもの要求に合わせて用意する。
楽しくかかわる	幼児	[友達や先生、様々な人・もの・ことに関わろうとする] 友達と一緒に、互いのしたいことを受け入れながら、遊びを進める。 言葉による伝え合い 動植物の世話など、自然環境にふれ、関わって遊ぶ。自然との関わり・生命尊重	運動会の行事や、交流活動などで関わりをもっている1年生や他学年の小学生、他の就学前施設の友達などに思いを馳せ、心を寄せて遊んだり、楽しさや嬉しさを共有したりする。地域のゲストティーチャーとの関わりを楽しむ。 社会生活との関わり	お正月の遊びや楽器遊び、劇ごっこの遊びなどで、文字や数字、図形、数量に興味や関心をもったり、先生や友達と一緒に 、必要感をもって活用しようとしたりする。 数量 ・図形、文字等への関心・感覚 [さまざまな人・もの・ことと出会い、自分の思いを表現して関わり合おうとする。]
楽しくかかわる	教師	教師が一緒に遊びながら一人一人の興味・関心を捉え、信頼関係を気づいていく。	共通の目的に向かって遊びに取り組めるよう相談の場をつくったり振り返ったりする時間をもち、それぞれの思いをつないでいく 。	これまでの生活でのいろいろな人との関わりを思い起こし、感謝の気持ちにつながるように投げ掛けたり、思いを受け止めたりする。
楽しくかかわる	環境	子ども同士がかかわって自分たちで遊びを進めることができるように遊戯室や園庭・校庭などを積極的に活用する。	1年生に親しみをもち一緒に遊ぶ楽しさが感じられるよう、園内外での交流保育の機会を設け、交流を楽しみにすることができるように事前に手紙などをやり取りし、掲示しておく。	カードゲームなど、遊びを通して文字や数量、形や色に興味をもつことができるような場を設ける。
自分でできる	幼児	[安心して 、自分の思いを十分に出そうとする。] 自分の思いだけでなく、友達の思いも受け入れながら遊びを楽しんでいくことに満足感を得る。年少児や年中児に親しみをもって関わる。自立心	運動会の遊びなど継続して遊ぶ中で力を出しきることに満足感を感じ、また、交流など新たな関わりの広がりを楽しみ、そのことが自信となり、苦手なこともやってみるなど生活を広げる。健康な心と体 自分が実現したことを、友達や小学生に認めてもらうことに喜びを感じたり 、実現したいことが達成できた満足感を味わったりする。社会生活との関わり	クラスのみんなで同じ思いをもち、みんなで満足感や達成感を味わう。自立心 力を発揮して実現できたことに自信を感じ、進学への期待や意欲をもつ。自立心 [安心感をもち、自分でできる喜びを感じ、ありのままの自分を発揮しようとする。]
自分でできる	教師	年長児になった喜びに共感し、自分でしようとする姿勢や異年齢児に思いを寄せて自分なりに関わろうとする姿を認める。	たくさんの友達の中で力が発揮できているか、役割分担をしながら遊びを展開できているかを把握し、助言をしたり、認めたりする。	一人一人の力を十分発揮し、クラスの一員としてやり遂げた満足感や達成感が得られるように認めたり、励ましたりする。
自分でできる	環境	年長の自覚がもてるように、担任間で連携して異年齢児との関わりのきっかけをつくる。	体を十分動かして遊ぶ楽しさが味わえるように運動遊具を配置したり、子どもが遊具や用具を自分たちで出し入れしたり、遊びの場をつくったりできるように場を整えたりする。	進学への安心感と期待感に繋がるよう、1年生を始め小学生との関わりが楽しめるような時間や場を設ける。
個別の支援		友達と関わりをもちにくい子どもには、思いの橋渡しをしたり、代弁したりして関わりを楽しめるようにする。 友達に認められる嬉しさを感じ、関わって遊ぶ楽しさを感じられるよう、友達に認められる機会を設ける。	クラスみんなでの活動に入りにくい子どもには、その子どもがやりたいことや思いを受け止めクラスで共有したり、楽しんでいる様子を見せたりなど、興味をもてるよう関わる。友達だけで遊びや生活を進めにくい時は仲介役として一緒に遊びや生活を共にし、思いや考え、イメージの橋渡しをする 。	進学への不安を感じる子どもには、これまでの成長を大いに認め自信にするとともに、進学への前向きな言葉をかけ、安心できるよう関わる。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

架け橋期のカリキュラム（1年生）

[　　]は各視点における年度当初の子どもの姿　[　　]は各視点における年度末の子どもの姿

下京雅小ブロック

共通の視点		1年生 4月　5月頃　6月　7月頃　9月 10月 11月 12月　1月 2月 3月
ねらい		【安心】 学校生活に慣れ、安心して登校する。 先生や友達と仲良くなり、自分の学級・学年で安心して過ごす。 先生や友達に親しみをもち、安心感のある学校生活を過ごす。 就学前施設で身に付けた力を発揮し、自信をもって主体的に生活する。 【成長】 →集団生活のルールが分かり、集団生活に慣れる。 →クラスや学年が自分の居場所となり、安心して過ごす。 →自分のことが自分でできる、仲間と共によりよい学校生活を送る。 →学校生活がほぼ分かり、自信をもって学習や生活に取り組む。 【自立】 →自信をもって小学校生活を送る。 ・自らすすんで学ぶ ・みんなと楽しくかかわる ・やれることは自分でできる
内　容		【生活】学校での生活の仕方が分かり、安心してすごす。（生活・学習・給食・遊び・当番活動・登下校など） 小学校生活の新たなルールが分かり、安心して自分で取り組もうとする。　→生活の仕方で分かることが増え、より安心することで関わりを広げる。 集団生活のルールが分かり、穏やかな気持ちで過ごすことができる。　→自分のことが自分でできることに自信をもち、新しい環境に自ら働きかけ、関わる。 【友達】教師や友達と一緒に学校生活を送ることを楽しむ。 知っている友達との関係を大切にし、新たな友達とも関わろうとする。　→クラスの友達の名前を覚え、関わりを広げる。 学校の様子が分かり、友達と共に活動することを楽しむ。　→仲の良い友達の輪を広げながら、学習や遊び、生活が充実する。
連携	学校	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえる。園で慣れ親しんだ歌や手遊び等を取り入れ、楽しみ、安心し、意欲につなげる。 就学前施設の保育者から情報を得て、指導に生かす。 就学前施設の保育者に小学校での様子（学習・生活）を見てもらい、情報を共有して指導に生かす。 就学前施設の担任と一緒に、交流について具体的な計画をたてる。　交流の事前・事後で担任同士が打ち合わせをする。　次年度の交流について計画をたてる。
	家庭	不安な状況等は早目に伝えてもらうようあらかじめ話しておく。連絡帳を活用したり、直接話したりして、安心してもらう。 ほめ電話（ほめTEL）で、児童の様子を伝えて安心してもらう。
すすんで学ぶ	児童	[身近な環境に興味をもって関わり、試したり考えたりする。] 自分の見たい・知りたいところを探検する。 身体や感覚を働かせて、思いきり遊ぶ。 就学前施設での経験を生かして、遊んだり学んだりする。 →学校でのはてな?やふしぎ?を見つける。　→主体的に自己を発揮しながら学びに向かう。 →自ら友達や環境に興味をもって関わり、遊んだり勉強したりする。 園児との交流をよりよく工夫する。 [身近な環境に興味や疑問をもち、自ら学び考えようとする。]
	教師	幼児期の発達の特性を知り、児童の意欲が高まるように配慮する。 児童の興味・関心をつかみ、主体的に学習（生活）できるようにする。 →生活科を中心に、授業の流れ（しかけ）を工夫する。 →生活科を中心に、合科的・関連的な指導の工夫をする。 →意欲的に遊びや学習に取り組む姿を認め、より主体的な意欲につなげる。
	環境	学習や生活、遊びのスタイル&ストーリー（生活習慣・学習習慣・遊びの場・給食の準備や片付けなど）を大切にした環境や一日の流れをつくる。 学習形態を工夫し、協働的に学べるようにする。（グループ机、広いスペースの活用など）学習に集中できるようにする。（すっきり、はっきり、視覚的）学習のきっかけが生まれるようにする。（しかけ、学びの足跡など）
楽しくかかわる	児童	[さまざまな人・もの・ことと出会い、自分の思いを表現して関わり合う。] 知っている友達と安心して関わる。 担任・学年の先生と仲良くなる。 友達と挨拶したり、名前を覚えたり、遊んだりすることを喜ぶ。 →知っている友達から少しずつ友達の輪を広げる。 →少しずつ教師や地域の人とも関わり、楽しむ。 →友達が安心の基地になり、生活が充実する。 →なかよしの仲間と活発に遊んだり、みんなで勉強したりする。 園児との交流を思いきり楽しむ。 [互いの思いを出し合い、みんなで頑張ろうとする。]
	教師	保育者の関わり方を知り、児童と一緒に遊び、信頼関係を築く。 新しい教師や友達、環境の変化に戸惑う児童に寄り添い、関わる。 園児との楽しい交流を計画する。 →全教職員が関わり、信頼関係を築く。 →友達関係の様子を見て、子ども同士をつなぐ支援をする。 →交流への思いが高まるような活動を考える。（手紙など） →集団のルールの必要性を伝え、自ら守ろうとする姿を認める。 →みんなと関わり、がんばることの楽しさを感じられるようにする。 →交流での経験を生かして1年生を迎える気持ちが高まるようにする。
	環境	教師や友達、他学年の児童、地域の人々と関わりがもてるような環境や機会を意図的に設定する。 （全教職員で一緒に楽しむ・温かく見守る・子どもの目線で話を聞く・笑顔で迎えるなど）（他学年児童と集団登校・集会活動・たてわり活動など）（家庭や地域の人々の見守り活動）
自分でできる	児童	[安心感をもち、自分でできる喜びを感じ、ありのままの自分を発揮する。] 就学前施設でしていた遊びで遊ぶ。 就学前施設での経験を話したり、伝えたりする。 自分でできることは、自分でする。 →少しがんばればできることにチャレンジし、できた喜びを味わう。 →友達のステキを見つけ、伝え合う。 →自分ががんばったことやできるようになったことを考えていく。 園児との交流の中で自分のできることを最後までやり切り、振り返る。 [自分の姿を見つめ、頑張りや良さを見つけようとする 。]
	教師	幼児期で身に付けた力を発揮できるようにする。 1年生になった喜びを受け止めつつ、安心感がもてるように関わる。 →不安を表す時期の個人差を受け止め、安心できるように関わる。 →自分でできるようになっていく姿を認める。 →単元の終末のふり返りを大切にする。 →できるようになったこと、ついた力を知らせ、認める。
	環境	見通しをもって生活できるようにする。（1日の流れ・朝の支度の手順・当番などの役割表示）自分で選択して活動できるようにする。（教室内の遊びコーナー・オープンスペースの活用など） 生活上のきまり等を視覚的に理解できるようにする。（道具箱の整理整頓・靴のそろえ方など）
個別の支援		不安な姿を見せる児童には個別に関わり、安心できるようにする。できるだけ複数の教員を配置し、個人・学級に目が行き届くようにする。 生活の仕方（トイレ・手洗い等）に戸惑う児童には丁寧に関わる。支援が必要な児童には、担任を中心に、複数の教員が関わるようにする。 児童の遊びや人間関係を観察し、うまくかかわれない児童には積極的に声かけをして、一緒にグループに入れるようにする。

竹田小ブロック　研究概要

（竹田小学校・改進保育所・竹田幼稚園）

研究主題

「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」の育成

～一人一人がいきいきと輝くために～

1 幼保小の架け橋プログラムの経過について

幼保小の架け橋プログラムに取り組む以前から幼保小3施設（竹田小学校・改進保育所・竹田幼稚園）の連携・交流は行ってきた。

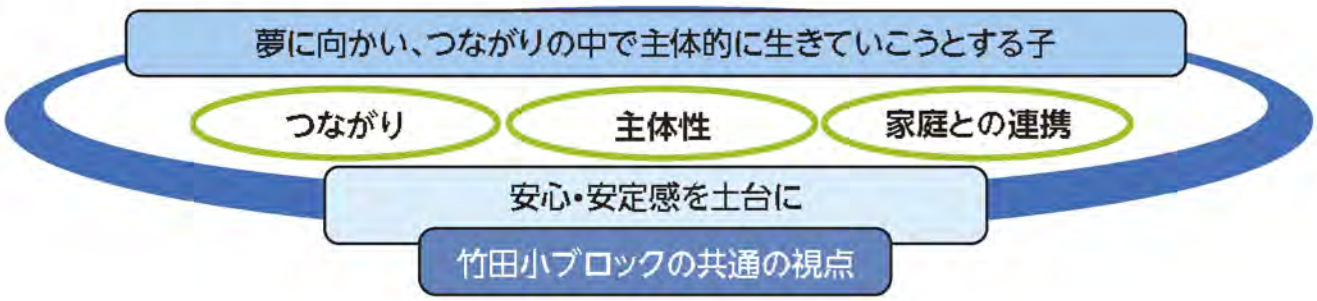
交流目的（①②は子どもについて、③は教職員について）

① 同じ地域に生活する子どもたちが交流し、知り合う機会にする。
② 保育所・幼稚園から小学校にスムーズな接続ができるようにする。
③ 「地域の子どもは地域で育てる」理念の下、同じ地域に生活し、竹田小学校に進学する子どもを中心にみんなで子どもを見て、子どもを知る機会にする。

交流内容

① 幼保小交流
　11月音楽会、2月生活科交流（にこにこタイム）
② 幼保交流
　5月グループ作り、7月プール交流、10月合同運動会
　11月地域行事参加、2月音楽コンサート、3月4歳児交流
③ 教職員交流
　4月連絡会（小学校授業参観）、5月連絡会、6月幼稚園参観、8月保育所参観、8月連絡会、11月連絡会、3月連絡会

以上のような連携・交流を土台に、幼保小の架け橋プログラムの取組をスタートさせた。まず、子どもの実態を出し合い、共通の視点を話し合い、架け橋期のカリキュラムを作成した。
子どもの実態から、期待する子ども像を、【夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子】、共通の視点を「主体性」「つながり」にした。また、保護者は学校園所への信頼は厚いものの、家庭での子どもへの関わりなど迷われることも多く、「家庭との連携」も加え、進めることとした。



子どもの交流活動に加えて、教員・保育者間の交流を深めていった。特に、公開授業・保育や交流活動などの事前・事後研修を丁寧にすることで、授業・保育のねらいや子どもへの願いなどを共有し、教員・保育者同士が少しずつ意見交流できるようになり、その中で、子どもの育ちがつながるように、架け橋期のカリキュラムの加筆・修正を行ってきた。また、それぞれの教育を知る“架け橋コーナー”を各校園に設置し、交流の様子やそれぞれの施設での活動を紹介し、教職員や保護者へ発信してきた。

2 交流から接続への転換（学びの連続性と子どもの見取り方）

教員・保育者間で話をしたり、互いの教育を見て学んだりすることで、教員・保育者の意識も変わってきた。

① 幼保小交流 5月22日・24日
図画工作科「すなやつちとなかよし」 幼稚園・保育所「砂遊び」

＊詳しくはP.80参照

小学校教員

幼保の先生は、裸足になって一緒に遊びながら、子どもたちが「できた!」と満足するように、さりげなく援助しているんですね!

幼保保育者

学校の先生は、全体を見て、一人一人がどんなことを感じたり、学んだりしているのかを、見ているんですね。

交流後の子どもの変化

【5歳児】1年生と遊んだことが刺激となり、砂場での遊びが深まった。交流の時につくった火山を再現したり、鬼が島や魚つりなどのごっこ遊びに発展したりしていった。

【1年生】幼保の友達のことを身近に感じ、話題にしたり、隣接する幼稚園に関わりにいったりするようになった。

②公開保育「すみれセンター（科学センターごっこ）」5歳児 6月27日

科学センターへ行った経験から、自分たちのすみれセンターをつくり、お客さんや友達とのやり取りを楽しむ。

「楽しかった」という実体験が、“やってみたい”“見てほしい”という気持ちに膨らんでいく。心が動く実体験を、幼児期に十分しておくことが大切ですね。

幼保保育者

生活科では2年生が1年生を招く単元がある。2年生にしかできないと思っていたが、幼稚園の5歳児が年少組をお招きしていた。もっと子どもたちに任せても、できるのかも!

小学校教員

5歳児の子どもたちが、自分の言葉で案内したり、説明したりしていた。学校では、言葉を決めたり、セリフを覚えたりしているが、その場に応じて臨機応変に話せた方が1年生の学びになるのではないかな。

小学校教員

生活科の授業づくりへ

③公開保育「保育所0～5歳児の遊び」8月21日～23日

小学校・幼稚園全教員が参観し、その後、事後研修をする。

各クラスの遊びの内容や援助などを記載した日案をもとに、子どもの姿を見取る。

公開保育

幼保保育者

同じ活動でも、保育のねらいによって、活動の見方、捉え方が変わってくる。子どもの実態や教師の願いから、ねらいをもつことが大切。

事後研修会

やりたいことが実現できる環境が学びの基本。自分で動ける環境が主体性を育むのではないか。

小学校教員

④公開授業・生活科1年生「いきものとなかよし」10月20日

合同指導案検討会

子どもが主体的に学習するための援助について、指導案や幼児期の生き物との関わりについて話し合う。

話し合い① 生き物の説明の仕方について

小学校教員

6月に見た保育で、5歳児の子どもたちが自分の言葉で話していたので、それを目指したいけれど…。

教師側も、子どもたちが説明の紙を持っていると、困っている時に援助しやすいので、安心なんですよね。

小学校教員

紙を持たずに発表することにしよう。不安な子どもは、話すポイントを書いた紙をもつことにすれば、安心できるかな。

幼保保育者

生き物の説明を書いた紙を持つと、読むことに必死になっている姿があった。

でも、生き物を介して自然に説明する姿がありましたよ。

自分の言葉で話すことで、相手を意識して、発表する側も聞く側も意欲が向上!!

原稿を読まず、自分の言葉で話すことで主体性がUP!

話し合い② 生き物について

小学校教員

自分たちが、捕まえた生き物や、身近にいるもののほうが、興味がもてますね。大切に育てることで愛着も湧いてきますね。

身近な生き物に思いをもって関わることで主体性がUP!

幼児期でも、だんご虫やバッタなどを捕まえたり、蝶を羽化させたりして育てる経験をしてますよ。

幼保保育者

話し合い③ 環境について

幼保からのアドバイスを生かして、丸形の水槽を設置!大きな写真でわかりやすい幼稚園の図鑑を配置して、自ら調べやすく。

自ら動きやすい、友達と関わりやすい環境を構成して主体性がUP!

子どもが意欲的に活動
子どもが生き生きとした授業

幼稚園では、丸い入れ物で飼育することもあります。みんなで見られるので、友達同士がつながりやすいですよ。

幼保保育者

幼稚園に生き物や自然の絵本がたくさんあります。1年生にとっては、調べやすいかもしれないですね。

活動や授業を振り返って

- 幼児期の子どもの学びや育ちを実際に見ることで、“1年生にはできない”という思い込みが変わり、子どもの興味や思いに寄り添う授業へと変わった。授業だけで終わるのではなく、子どもたちが生き物を継続して育て、思いをもって関わることで、意欲的に、より主体的な姿がみられるようになった。
- 幼保小の教員が、指導案検討から一緒に生活科の授業づくりをすることで、幼児教育での経験が生きる学習になったり、より主体的な活動にするための環境を考えたりすることができた。また、学習内容を知ることで、幼児期での経験の重要性を再確認し、互いの教育への理解が深まった。
- 今後も多くの教員で共有し、授業・保育の改善につなげていきたい。

3 一人一人を大切に… 架け橋期の個の姿を追い、個や集団の変容へ

家庭的な面など気にかかる子どもの姿を、竹田小ブロックの共通の視点である「つながり」「主体性」「家庭との連携」の3点を中心に、架け橋期の2年間を通して、幼保が行ってきた個に応じた支援を共有し、小学校入学後の成長を追った。

(1) 個の変容と教師の関わり(事例から)

① A児の変容と教師の関わり

4月:入学してすぐのA児の姿より

好きな絵をかく学習。なかなか絵をかこうとしないA児。机にうつ伏している。10分ごとに声をかけても返事はない。30分後、教師が、「先生がかくし、色塗りする?」と聞くと、「うん」と応え、本児が好きな“バナナ”の絵を教師が画用紙にかき、A児が色を塗った。すると、それがうれしかったようで、2枚・3枚と画用紙に色を塗ることを楽しんだ。

小学校教員

かきたいけど、かけないA児の気持ちの受け止め

9月:エプロンを着たくないA児の姿より

給食エプロンを着るのを嫌がるA児。
理由も言わず、1学期が過ぎたが、ようやく「ガボガボするのが嫌」と言う。
9月のある日、他の教師に「エプロンを着ていないと給食室に入れない」と言われ、担任が、「どうする?言われちゃったなあ。そうなんだって」と、A児に問いかける。
A児「あと1回寝たら…」と、言う。教師「そう?あと1回寝たら、エプロン着ようね」と約束する。
次の日、A児はエプロンを着て、嬉しそうに給食当番をした。

自分で考えて決めることを大切に

小学校教員

2月:幼保小交流(にこにこタイム)でのA児の姿

国語チームになり、「大きなかぶ」のペープサートをする。担任が「あっ、かぶがない!Aさん、かぶしてみる?」とA児を誘う。「あー」と返事。表現しやすいかぶをつくり、それに割りばしをつけると、つくれたことを喜び、走って体でその喜びを表現していた。

A児の育ち

不安や自信のなさから、活動に取り組むことにネガティブになっていた姿があったが、A児の思いに寄り添うことで、次第に自分でできることは、自分でやりたいという思いがでてきた。

できるという自信

② B児の変容と教師の関わり

2学期:学校に行きたくないB児の姿より

2学期に入り、学校に行くことを嫌がる姿が見られるようになったB児。担任は、保護者と連絡を取り合い、毎朝、家まで誘いに行っていた。
担任との立ち話の中で、B児が登校しにくくなっていることを聞いた幼稚園の元担任。
B児の保護者と顔を合わせた時に、何気ない会話をしながら、保護者の気持ちに寄り添い、声をかけた。
しばらくすると、B児も学校に通えるようになった。後に、母親が「幼稚園の先生にも声をかけてもらえて、ホッとした」と話していた。

幼保小でともに育ちを見守る教師の関係

小学校教員

2月:幼保小交流(にこにこタイム)でのB児の姿

やる気満々なB児。チームも自分から決めて、休んでいた友達に「僕のチームに入って!」と誘いに行く。文字を読むことは苦手なので、教科書を大きくコピーしたものを渡すと、文字を追って一生懸命読んだり、年下の友達を張りきって案内したりしていた。

B児の育ち

学習面や友達との関わりの中で苦手なこともあるが、相手に「手伝って」と言えるようになると、本児の明るさや、周りの友達の助けもあり、自分の頑張りを認めてもらうことで、より意欲的になっていった。

友達からの認め

(2) 学級の児童の変容～新たな友達との出会いの中で、丁寧に安心感をつくる支援を～

入学当初の児童は新しい人間関係の中で、「僕はしているのに、なぜ…○君はしないの?」と、相手の行動をとがめるなど、自分のものさしで測る姿があった。「今日はそんな気分じゃないのかな?」「きっと、やりたいと思っていると思うよ」など、子どもの気持ちをクラス全体に伝えつつ、個々の子どもの姿を受け入れる姿勢で教員が関わっていくことで、次第に、友達のことを受け止めたり、それぞれの苦手なことを認め合えたり、優しく声をかけたり、クラス全体で温かく見守り、クラスが居心地のよい場所になっていった。また、一人一人の子どもの思いを受け止める教師の姿勢が、どの子にとってもクラスでの居心地がよくなり、自己を発揮できる基盤になると意識して、子どもたちに関わってきた。そうすることで、自ら考え主体的に学習に取り組む姿も増えてきている。

4 教職員の変容

幼保小の架け橋プログラムに取り組んでいく中で、子どもたちはもちろん、進めていく幼保小の各教員・保育者たちにも変容があった。

教師の存在・関わり

幼保は、やりたくなるような心が動く"環境づくり"を心がけていた。小学校も"やらなければいけない"ではなく、"やりたい"と思える授業を考えることが大切だと思った。

小学校教員

砂遊びで、幼保の先生が泥んこになって一緒に、思いきり遊んでいた。一緒に遊ぶ中で、子どもが自分でできたと思えるように、さりげなく援助していた。子どもと共に遊ぶからこそ、子どもたちは先生を身近に感じ、自分も一緒にやりたくなるのだと思う。

心が動く授業づくり

1年生は、できないから教えてあげなければと思っていたが、いろんなことを幼児期に経験して学んでいることを理解できた。もっと、子どもを信じて、関わっていきたい。

小学校教員

教師間の関係構築

進学に向けて、小学校は幼保と違うところがあるよと子どもたちに伝えがちだったが、子どもたちのことを一緒に考えてくれる存在として、送り出す側として、安心した。

幼保保育者

話し合いや交流をすることで、小学校の授業に対する思いや子どもへの願いなどを知り、子どもを育てる思いは同じだと嬉しく感じ、小学校の先生に、とても親しみを感じることができた。

幼保保育者

互いの教育への気づき

就学前施設の子どもたちが、何かをつくりたいと思った時に、自分たちでやり始める姿に驚いた。主体的に動けるようにわかりやすい環境の必要性を感じた。自分の教室は、「子どもたちにとってわかりやすいのか」という視点で見直したいと思った。

小学校教員

授業の内容や単元の流れを知ることで、改めて、幼児期に大事にしなければいけないことを感じることができた。当たり前にしている遊びの意味を、育ちをつなぐ視点で見つめ直し、幼児教育の質を高めていきたい。

教室の環境や、教師の関わりを見直してみよう!

小学校教員

教室の環境を見直す

- ものの場所を固定
- わかりやすく掲示
- 自分で動ける環境

教師の関わりを見直す

- けんかをすぐに仲裁せず、子どもたちの思いを出す・折り合いをつける経験を大切に。
- 1回で成功できるようにでなく、試行錯誤できる経験を。
- 指示待ちではなく、「こうしたい」と思える活動に。

5 にこにこルーム開設に向けて

小学校教員の意識の中に「子どもがやりたいこと」というより、「子どもに指導しなければならないこと」と捉えて進めていく傾向にあった。特に入学当初は、「教室に入り、自分の席に座って学習・活動をする」という点について、早く定着させたいと焦りがちになっていた。幼保小の架け橋プログラムに取り組み、子どもたちにとって、小学校が安心できる場になり、学校生活をスムーズに過ごせるようになるためには、机やいすでなく、幼保のような環境で過ごせる場が必要だと感じ、新たに『にこにこルーム』という教室を1年生の教室の隣に設けた。『にこにこルーム』には、幼保で使用していたであろうおもちゃや絵本を置いたり、友達や先生と近い距離で活動が進められるように畳を敷き詰めたりと、幼保の要素を取り入れた環境を意識した教室となるようにした。

環境の工夫

- 畳を敷き詰めて座って遊べるようにする。
- 友達とつながれるようなおもちゃを準備
- 幼保で遊んでいたような環境にする。

幼保の先生と一緒に環境を準備

一人で遊べるパズルや折り紙、塗り絵の他に、カプラやドミノのような、友達と一緒に遊べるおもちゃも、準備しましょう。

座卓で向かい合って活動することで、友達とつながれるかもしれないですね。

『にこにこルーム』の現状と課題

- 不安で教室に入りにくかったり、席に座って活動しにくかったりする子どもにとって、学校生活に慣れる場になった。
- 畳が敷いてあることで、友達と触れ合ったり、寝転んだりでき、友達とのつながりを深めやすいと同時に、入学当初の休み時間にのびのびと遊ぶことができた。
- 居心地がよくなり、教室に戻るのを嫌がったり、遊びがやめられなかったりする姿があるので、環境の出し方など工夫する。

架け橋コーナーでは、幼保小の連携・接続の取組を保護者・教職員に知らせている。

6 成果と課題

子ども同士の交流活動だけにとどまらず、教員・保育者間での交流を深めることで、少しずつ教員の意識に変化が見られてきた。保育や授業を見合い、研究協議することで、子どもの育ちのつながりや、子どもの捉え方、関わり方、互いの教育について知ることができ、交流から教育の接続へと進められたことが大きな成果である。保護者からは、架け橋コーナーの掲示物を見たり、担任からの幼保小の架け橋プログラムの話を聞いたりする中で、「今後も続けてほしい」「入学が心配だったが、安心した」「にこにこルームが、子どもにとって安心できる場所になっている。より連携が深まってほしい」という声をいただいている。架け橋期に携わる教員だけでなく、全教員が学ぶ校内体制により、教師一人一人が自分事として捉え、学びがつながっていることを意識するようになってきている。今後も、互いの教育・保育の質の向上につながるように、持続可能な交流や研修の在り方について考え、発信していきたい。

架け橋期のカリキュラム（竹田小ブロック・5歳児）　期待する子ども像「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」

竹田小ブロック

共通の視点			4・5月	6・7・8月	9・10月	11・12月	1・2・3月
望ましい発達の姿			安心・安定感	自信・充実	自己発揮・協同		協同・期待
			・新しい環境に慣れ、安心・安定感をもって生活する。	・身近な環境に関わり、試したり考えたりして遊ぶ。	・友達関係を深めながら、自分の力を十分に発揮して遊び、生活する。	・友達と共通の目的を見出し、工夫したり、協力したりする。	・学級全体の課題に取り組み、やり遂げた充実感を味わい、就学への期待をもち、成長を感じる。 ・生活に見通しをもち、自分たちで生活を展開する。
園・所で展開される活動			・生活の場づくり（ロッカー・靴箱など）言・社 ・春の自然に触れる（虫探し・草花摘み）自然 ・砂や泥、色水遊びなど素材に触れて遊ぶ 思・感 ・興味をもち考えたり試したりする（ツマグロヒョウモンの幼虫などの飼育・一人一鉢栽培）自然・数 ・プール健 ・ルールのある運動的な遊び（しっぽとり・帽子取り等）健・道・数 ・ごっこ遊び言・協 ・当番活動（飼育・給食の配膳・昼食時の挨拶）自然・言・社		・体を動かす遊び、ルールのある遊び健・道・言・数・自立 ・栽培物の収穫と調理、パーティー、お店屋ごっこなど自然・協・数・言・社 ・共同制作、絵画、制作活動等・歌や仲良し遊び、楽器遊びなど感・クッキング（ご飯・味噌汁）健 ・秋の自然を取り入れて遊ぶ自然・思 ・マラソン健・数 ・お茶会体験（幼）社・感 ・生活発表会（保）劇遊び・和太鼓協・感・言・感		・正月の遊び数・思・道・自 ・生活発表会（幼）協・感・言 ・修了に向けての活動感・社（お別れ遠足・記念製作等） ・小学生との交流社 ・当番活動の引継ぎ社・協
安心・安定感を育む	つながり	幼児	・年長児になったことを喜び、いろいろな友達や先生と関わって遊ぶ楽しさを感じる。 ・新しい保育室に慣れる。 ・友達とイメージを膨らませて遊ぶ。	・友達と考えを出し合い、相手の思いを分かろうとし、遊びを進めようとする。 ・友達とイメージを広げながら遊んだり、年下の友達と関わったりすることを楽しむ。 ・自然物と関わり、考えたり、試したりして遊ぶ。	・共通の目的に向かって、一人一人が力を出し、達成する喜びを感じる。 ・いろいろな素材や遊具を工夫して使い、友達と一緒に遊びに使うものをつくったり、かいたりすることを楽しんだり、歌や楽器遊びなどの表現活動を楽しむ。 ・運動会の遊びやお店屋さんなどのごっこ遊びを異年齢で楽しむ。 ・年下の友達など相手の立場に立って言葉をかけて関わろうとする。		・友達と共通のイメージをもち、相談しながら遊びに必要な場を構成したり、必要なものをつくったりする。 ・遊びや生活を振り返り、自分の成長を感じ、さまざまな人への感謝の気持ちをもつ。 ・小学生とにこにこタイムで交流し、就学に期待する。
		援助	・教師もともに遊び、一人一人の思いを受け止め信頼関係をつくる。一人一人の安定する場所をつくるとともに子ども同士をつないでいく。	・グループやクラスで話し合う機会をもち、教師が橋渡しをしながら、互いの思いや考えを出し合えるようにする。互いに認め合える関係づくり。	・仲間がいるからこその遊びの楽しさを感じたり、気付いたりできるような言葉をかけて関わる。 ・共通の目的に向かって遊びを進める充実感が味わえるように、友達と考えや思いを出し合う姿を認める。		・一人一人の姿を認め、自分の力を発揮できるように励ます。 ・自分もクラスの仲間であることの喜びを感じたり、友達の良さを認めたりしながら、力を合わせて取り組もうとする姿を認める。
		環境	・新しい保育室に慣れ、自分たちで生活の場を整える気持ちがもてるようにする。 ・安定する場所、遊びの拠点となる場所の環境を工夫し、友達とのつながりを感じられるようにする。	・遊びの振り返りでは、ICT機器や写真を活用し、視覚的にイメージが共有できるようにする。	・見通しや期待をもって活動に取り組めるように、視覚的に分かりやすい環境を工夫したり、図を見て話し合ったりする。 ・友達がつくったりかいたりしたものを見て、よさに気付き認め合う時間をもつ。		・幼保小が互いの様子が分かるようにDVDを活用した交流の機会を設定する。
	主体性	幼児	・様々な素材や材料に親しみ、心を開放させて遊ぶ。 ・グループの友達と相談する機会をもち、動物当番や昼食時の当番をする。	・友達と共通のめあてをもって遊びを進めていく楽しさを感じる。 ・ごっこ遊びでは役になりきって、自分で言葉を考えて友達とやりとりをする。	・みんなで考えた遊びや生活のルールを、必要感を感じて守ろうとする。 ・友達と力を合わせる遊び、勝ち負けのある遊びを通して、自分と向き合い葛藤したり、友達と達成感を味わったりする。さまざまな運動遊びに興味をもち意欲的に取り組む。 ・ごっこ遊びなどの取組で、数字・文字・標識などに関心をもち、活動に取り入れる。		・自分の役割を自覚し行動し、役割を果たす喜びを感じる。 ・絵本やお話を聞いてイメージを膨らませ、登場人物になりきって表現したり、気持ちを考えてセリフを言ったりして、友達や先生と劇遊びを楽しむ。
		援助	・年長児になった喜びに共感し、自ら活動しようとする意欲を受け止める。 ・遊びの継続性を大事にするため、グループで時差をつけて給食を食べる。（保）	・意欲を受け止め、めあてがもてるように提案したり、試したり工夫したりできる場と時間を、時には他学級の担任と連携し確保する。	・一人一人がめあてをもち、意欲的に取り組んでやり遂げるよう、自ら考え、動く姿を見守り必要な時を見極めて援助する。 ・自信がもてるように認め励ます。		・友達と意見がぶつかったときは、納得して折り合うことができるように、子ども同士で解決する姿を見守る。
		環境	・見通しをもって生活できるように、絵カードを用い、一日の流れを分かりやすく知らせる。 ・友達と関わりが生まれる場所や遊具を選ぶ。	・身近な自然物や生き物と触れ合う機会を多くし、子どもが興味をもったものや疑問に感じたことを追求したり、継続して成長を見たりすることができるようにする。	・戸外や小学校運動場で思い切り体を動かす機会を設ける。 ・季節の行事や自然に親しめるように、自然物や子どもの作品を飾ったりする。 ・保育室の椅子を「5」ずつ置いたりチケットを数えたりするなど、生活の中で「5」の概念や「1対1対応」を意識できるようにする。		・園行事など予定をカレンダーに書いたり「あと何日」と数えたりして、主体的・意欲的に生活できるようにする。
支援・連携	家庭		・登降園・所時に家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えたりして、保護者との信頼関係をつくる。日々の子どもの姿や活動のねらいをホームページや園だよりなどで伝え、ともに成長を喜ぶ。 ・個人懇談で家庭の背景を知り、保護者が必要な支援を知る。 ・活動のねらいや子どもの様子、連絡事項を個別に、また具体的に知らせる。 ・学級懇談会で園の教育方針や学級経営について伝える。 ・運動会や生活発表会など保護者が参観する行事では取組の様子やねらい、過程での育ちを伝える。 ・展示食とレシピを展示し、家庭でもいろいろな食材に触れられるようにする。 ・給食のメニューを通して、親子クッキングをしてかかわりを楽しみ、食材を知ったりする。（保育所では炊飯と味噌汁づくり） ・就学支援シート説明会を行い、保護者が安心して進学について考えられるようにする。 ・弁当箱をクロスに包む。 ・嫌いなものも少しは食べようとする。 ・お手伝い活動（調理、布団敷き）をする。 ・気温に合わせて、自分で服装の調整をする。 ・薄着で過ごす。 ・暑い時はシャワーを浴びたり汗を拭いたりする。 ・学級懇談会で子どもたちの成長の姿を伝え、保護者が安心して就学準備をできるようにする。 ・生活習慣の自立について保護者と確認し、小学校生活での戸惑いを少なくできるよう、家庭での対応の仕方など保護者と連携する。				
	幼保小		・入学当初の授業参観に参加し、1年生の様子を知る。 ・授業参観や保育参観を行い、それぞれの教育について知る。 ・幼保で顔合わせを行い、新しい友達を知る。 ・学校で交流したり、運動場で走ったりして、学校に親しみをもつ。 ・砂場の交流では事前にねらいと環境について共有する。交流しながら迷いがあれば、確認し合う。		・小学校の行事に参加し、ともに活動し、いろいろな友達や先生と関わることを楽しんだり、幼保小の一体感を感じたりする。 ・運動会後の交流保育では事前にねらいと環境、司会担当など進め方について話し合う。事後に育ちや改善点について出し合い次年度につなげる。		・小学校のにこにこタイムに参加し、新しい友達や生活の仕方を知ったりして、学校生活に期待をもつ。
個への支援			・学級全体の活動では、全員そろってから、全体への話を担任から聞き、その後個別にその内容を伝える。	・ごっこ遊びなど参加しにくい子どもには、役割や言葉などをはっきりさせて、加配教員と連携して参加しやすい援助をする。	・遊びのルールを理解できにくい子どもには、図を用いるなど視覚的に説明したり、その場で伝えたりする。 ・劇遊びでは参加しにくい子どもが参加しやすい場面を作り、ストーリーを子どもと考え創作する。		・就学への不安感をもつ子どもには、遊びや生活で自信をもっている場面を見つけ認め、自分の良さに気づくことができるように関わる。DVD視聴で学校生活の様子を知り、学級全員で期待感が共有できるようにする。

＊「園・所で展開される活動」内に幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を略して入れている。健・健康な心と体 自立・自立心 協・協同性 道・道徳性・規範意識の芽生え 社・社会生活との関わり 思・思考力の芽生え 自然・自然との関わり・生命尊重 数・数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言・言葉による伝え合い 感・豊かな感性と表現　「支援・連携」の「家庭」の四角の枠は家庭と連携して身につけたい生活習慣、経験。「幼保小」の四角の枠は経験させたい内容

架け橋のカリキュラム（竹田小ブロック・1年生） 期待する子ども像「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」

竹田小ブロック

共通の視点			4月	5月	6月	7・8月	9月	10月	11月	12月	1・2月	3月
望ましい発達の姿			安心・安定感		安心・安定感・仲間づくり・達成感		自立・充実・協力		自立・充実・協力		協同・自信・期待	
			・新しい環境に慣れ、安心・安定感をもって生活する。		・身近な環境と関わり楽しく安心して遊んだり生活したりする。		・身近な環境や教材と関わりを深め、気持ちの自己調整をしながら、学校生活を送る。		・クラスや学年共通の目的に向けて学習・活動に協力しながら取り組む。		・自分たちの生活や学習を振り返り、さらに成長するために意欲的に活動する。	
小学校の生活科を中心とした各教科等の単元名や活動			・学校生活の仕方を知る。 ・学校生活・集団生活のルールやマナーを知る。	・いちねんせいがはじまるよ ・なかよしいっぱいがっこうたんけん ・一年生を迎える会	・学校生活の仕方に慣れる。 ・さいてほしいなわたしのはな	・なつとともだち ・水遊び ・わくわくプラン	・生活調べ ・わくわくプラン ・いきものとなかよし	・体育発表会 ・あきとともだち	・1・2年合同校外学習 ・音楽発表会	・みんなのにこにこ大さくせん ・キズナ作文	・ふゆとともだち ・もうすぐみんな2年生 ・TAKEDAフレンドフォーラム	・にこにこタイム
安心・安定感を育む	つながり	児童	・友達にあいさつしたり自己紹介をしたりし、お互いに興味を持つ。 ・幼稚園や保育所で経験した遊びを一緒に楽しむ。		・気の合う友達と仲良く遊ぶ。 ・クラスの友だちと一緒に学習し、ペアやグループで達成感や喜びを共有する。 ・クイズを出し合ったりインタビューしたり、一方的ではない交流を楽しむ。		・学年の友達と仲良く学習したり遊んだりする。 ・相手意識をもって学習・活動に取り組む。 ・友達のいいところをみつける。		・上級生と仲良く遊んだり学習の交流をしたりする。 ・クラスや学年の友達と達成感や喜びを共有する。 ・家族や家庭における自分について考える。		・友達同士でこの1年間を振り返り、自分や友達の成長に気付き、進級への期待を高める。 ・友達と協力してにこにこタイムの活動を考え、準備する。	
		支援	・家庭や幼稚園・保育所での様子を知り、遊びや会話を通して信頼関係を築く。 ・笑顔でゆっくりと肯定的な言葉で話し、あたたかい関わり方を心がける。 ・にこにこルームで、安心して遊んだり楽しく歌ったりする中で、教職員や友達とつながりをもてるようにする 。		・担任以外の教職員もあたたかく積極的に関わり信頼関係を築く。 ・子ども同士をつなぐ支援を行う。 ・集団で遊んだり学習したりする楽しさを感じられるようにする。		・相手意識がもてるような声かけをする。 ・児童のいいところを積極的に取り上げ、褒め、広めるようにする。 ・クラスや学年などの他とのつながりを大切にできるよう集団の高まりやいいところを積極的に取り上げ、褒める。		・お手本にしてほしい上級生の言動に注目させる。 ・家庭生活に関わる活動を設定する。 ・学校外の人たちとの関わりにも目を向け、公共のルールやマナーを意識できるようにする。		・自分自身や友達の成長が実感できるような活動を設定する。 ・自信をもち、進級への期待が高まるように、新1年生の存在に気付けるようにする。	
		環境	・学校教育目標や学級目標を伝える。 ・幼稚園や保育所での経験を生かした学習や遊びの場を設定する。 ・全面畳敷きのにこにこルームを1年教室の横に設定し、遊具や絵本等を置き、安心して遊べる環境を作る。		・学習の中に共同学習・ペア学習の場を設定する。		・見つけた友達のいいところを広げられるような場を設定する。 ・学習や活動のめあて・振り返りを提示する。 ・学習・活動の振り返りを掲示し共有する。		・他とのつながりが感じられるような写真や絵を掲示する。		・友達の頑張っていることが伝わるように、子どもの成果物を掲示しておく。	
	主体性	児童	・幼稚園や保育所での経験を生かし、生活・学習を進める。 ・担任に自分の思いを伝える。		・自分の読みたい本を探し、読書を進める。 ・ペアで自分の思いを伝え合う。 ・色を塗るなどの簡単な形で学習・活動の振り返りをする。		・健康的な生活を意識する。 ・グループで自分の思いを伝え合う。		・上級生に自分の思いや考えを伝えながら学習を進める。 ・ペアやグループでの活動を楽しみ、クラスや友達のためにできることを考える。		・これまでの学習経験を生かし、自分の思いや考えを表現しつつ、比較をしたり、違いを感じたりしながら学習を進める。	
		支援	・児童の特性を知り、児童の意欲が高まるように配慮する。 ・児童の実態に合わせて、柔軟に時間割を組む。 ・ストーリー性をもたせるなどの工夫をすることでスムーズに取り組めるようにする。		・生活や学習の中に自分で選択する場を設定する。 ・子どもの意識や思いの流れを大切にした授業を構成する。 ・できるようになったことを実感できるような声かけやしくみを意識して行う。		・早寝・早起き・あさごはんなどの健康的な生活の重要さを伝える。 ・自分一人でも進められるような学習・活動方法を取り入れる。		・上級生は優しく輝りになる存在であることを伝える。 ・ペアやグループでの活動など友達と関わりながら学ぶ機会を多く取り入れる。 ・運動会や音楽発表会の行事を通して達成感がもてるようにする。		・もうすぐ2年生に進級することや新1年生のよき見本となってほしいことを伝える。 ・入学からこれまで上級生や周囲の大人が支えてくれていたことに気付けるようにする。	
		環境	・絵や写真などの視覚的な指示を使って安心感をもてるような場を設定する。 ・一日の生活や学習の基本的な流れを確立する。 ・約束や進め方などは伝え、共有した後に自分で確認できるように掲示等の工夫を行う。		・学習・活動に関連する並行読書を用意する。 ・主体性を高め合える・刺激し合えるような学習形態にする。 ・自分の〇〇という思いで意欲的にかかわったり扱ったりできるよう、個別の場所・物を用意する。		・学習や活動にめあてをもって取り組む。 ・学習・活動後に感じたことを言葉で記録する。 ・いろいろな物に興味・関心が持てるように可能な限り多種類の教材等を用意する。 ・児童自身で学習・活動できるように動画教材等を準備する。		・意欲が高まるような教材を作成したり、幼稚園から借りたりして用意する。 ・係活動や当番活動について話し合う機会を増やす。		・これまでの学習の足跡がわかる学習カード等をすぐに見ることができるようにしておく。	
	支援・連携	家庭	・見通しをもってもらえるように、前もって学習や活動についての連絡をしておく。 ・児童の情報を家庭から得たり、学校は子どものよいところを知っていることを発信したりする。 ・保護者に連絡や伝えたいことがある場合は、積極的に家庭訪問する。		・家庭学習や読書等、家庭にも協力して取り組んでもらえるように学級通信等で働きかける。 ・個人懇談会で子どものよいところや頑張り等を伝え、今後につなげるようにする。		・生活リズムを把握し、健康的な生活を意識してもらう。 ・授業参観で子どもやクラスの様子を知ってもらい、共に健やかな成長を考え見守ってもらえるようにする。		・個人懇談会でよさや頑張り、課題を共有する。 ・子どもがお家の人のために立てたにこにこ大作戦を温かく見守ったり、コメントしたりして家庭でのつながりを深めてもらえるようにする。		・半日入学・入学説明会で、新入学予定児童が期待と安心感をもって入学できるように工夫する。 ・子どもたちの成長が伝わる授業参観・懇談会を設定し、2年生への見通しを持てるようにする。	
		幼保小	・幼保小連絡会で新入学児童の情報を交流する。 ・幼保の教員・保育者の顔合わせをする。 ・5歳児の担任だった幼保の先生等に授業参観してもらい、1年生の様子を知ってもらう。 ・にこにこタイム「砂場交流」を実施し、幼保小の子ども同士が交流する。		・幼稚園参観や保育所参観で、保育や園児の様子を知るとともに、園児に小学校教員の顔を知ってもらう。 ・幼保小連絡会で情報交換を行う。 ・にこにこタイム「水遊び」を実施し、幼保小の子ども同士が交流する。		・幼保小連絡会で情報交換を行う。 ・幼稚園・保育所の運動会を小学校の校長や教員が見学する。 ・ミニ運動会（幼保小）を実施し、子ども同士が交流する。		・にこにこタイム「秋見つけ」を実施し、幼保小の子ども同士が交流する。 ・ぐんぐん広場（幼保）を実施し、交流する。 ・小学校の音楽発表会へ幼稚園・保育所の園児を招待する。		・新入学予定児童や家庭の情報を得る。 ・幼稚園や保育所で経験していることについて知り、次年度の計画を立てる。 ・授業参観にて子どもの1年間の成長を知ってもらう。 ・にこにこタイムで、入学予定の児童に、小学校を紹介する発表会を実施する。	
	個への支援		・一人一人の思いや背景、内面をしっかりと見つめ、その不安や緊張感を理解し、様々な子どもの姿を受け入れる。 ・困っている児童の家庭に連絡・相談し、次につなげる。 ・困りが予想される家庭に前もって連絡をし、家庭での協力を得る。		・疑問や不安の出し方を伝える。 ・できていないことや困っていることがあっても「〇〇さんがいるだけで、学校に来てくれるだけで花丸」ということを伝える。 ・自分の姿を振り返り、次につなげる。困った時は困ったと自分で言えるようにする。		・生活の乱れから遅刻しがちな児童等の家庭へは、生活調べの取組前後に連絡をし、意識的に進めてもらうようにする 。		・進んで取り組んでいる姿を言葉で伝え、達成感を高められるようにする。		・成長した姿を喜び、共有し、次年度への期待感を高められるようにする。	